



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 33

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 33. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1955, 33: 5-8

ISSUE DATE:

1955-06-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186844>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 33

1955. 5月 (6月3日)

録 事

5月に入っても入館者は依然として多く、このところ好況を続けている。
上旬の連休がこれに幸したと思われる。

宮地会長はローマに行かれてから連絡もなかったが、5月2日に日本に帰られ、7日にはまたあわただしく羽田から日本学術会議議員の一行に加わって、ソビエト國に招聘の視察旅行の途につかれた。目下同國內視察中であるが、6月中旬中共を経て帰國される予定。

今年から國立大学の外廓団体も會計検査院の实地検査を受けなければならないことになり、5月14日 同院出張官の田島淳副長及び安川継男事務官の兩氏が見えた。大学側よりは事務局の本田會計課長(監事)、茅田主計掛長と理学部の高田事務官(委員)が同行。一行は白良荘に泊の上、15日朝来所、所内を一巡見学の後、特研會議室で1時間半にわたり會計検査が実施された。晝食後白浜遊覧の上、南紀号準備で京都に歸られた。

8日 内海常務委員は會務処理のため京都へ出向。本田、生駒監事、高田委員と語り、本年度予算案の作成、本会研究奨学金規程²⁾(案)の作成、及びその公募、職員退職手当支給内規³⁾(案)、博物館改築のための用途指定特別寄附金の手続き促進方、等について協議した。

1) 2) 3) の項については、一応の案がまとまりましたので別紙に記載しますが、不在中の宮地会長及び全委員の承認を受けていませんので業務処理上、やむなく回覧致しますから、持ち廻り委員会として御承認を得たいと存じます。なお否決或いは質疑ある場合は、文書で私の方へお尋ね下されば納得のいよう御説明いたします。(内海)

業務概況

◎ 5月の入場者数

区 分	水族館 発券数		明光バス 発券数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	9911 [△]	19953 [△]	18563 [△]	39955 [△]	28474 [△]	59908 [△]
小 人	446	1350	182	603	628	1953
団 体	10324	18764	—	—	10324	18764
合 計	20681	40067	18745	40558	39426	80625
無料入場者	白浜第一・才二小学校 幼稚園 その他				746	804

◎ 5月の事業収入 (累 計)

観覧券売上金	740,314	1,517,056
魚類排下(死魚処分)	450	1,050
諸 収 入	110	110
4月よりの繰越	587,830	
計	1,328,704	

◎ 5月の支出 水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	53,959	103,811	
備 品 費	2,100	4,140	
消 耗 費	2,185	15,345	
事業費	30,011	58,331	
維持費	6,990	10,235	
其他諸経費	24,229	65,865	
積 立 金	123,385	2,52,842	全収入の1/6其他
合 計	242,859	510,569	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
消 耗 費	14,500	14,500	ビン類不足分
合 計	14,500	14,500	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	4,800	9,000	
消 耗 費	—	35	
備 品 費	6,100	6,100	臭標本
合 計	10,900	15,135	

支出合計

		(累計)
水族館経費	242,859	510,569
実験所経費	14,500	14,500
博物館経費	10,900	15,135
計	268,259	540,204

5月末現在高...1,060,445
支出累計...540,204

◎ 前年度との比較

	1954	1955	増減
入場者数	30966	39426	+ 8460
売上金	574,100	740,314	+ 166,214
支出金	341,697	268,259	- 73,438

水族館記事

- ◎ 9日 美しい大形のキツネベラ 2匹 No.29水槽に入る。
- ◎ 14日 百数十匹のサバの子を雑賀崎漁師より購入、No.37の水槽に入れたが、ニザダイの群よりはなれて一群となって泳ぐさまは美しい。
- ◎ 17日 巨大なカンダイの1匹が死亡。水槽での生存日数74日間(5月5日～5月17日)。これの骨は骨格標本として保存することとなり、目下時岡季真の手により製作中。
- ◎ 4月16日 エビスダイの1匹が死んだ後、あとの1匹が淋しそうにしていたが、偶然にも18日に堺の漁師より前に劣らぬ優物を手に入れた。2匹とも大変元気である。
- ◎ 30日 ツボアミにより珍しいテングハギが1匹手に入った。ツボアミは今月末を以て就業を中止、いよいよ梅雨期に入るので、魚の補給も困難となるであらう。

博物館記事

- ◎ オトメヅカラ 1個他3点の美貝標本を購入。

資 料

◎ 5月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(16)	4	6	6
気 温 (C°)	$\frac{17.8-21.2}{19.3}$	$\frac{18.0-22.5}{20.5}$	$\frac{18.8-22.0}{22.6}$
水 温 (C°)	$\frac{18.5-19.8}{19.0}$	$\frac{19.8-21.5}{20.8}$	$\frac{20.3-21.0}{22.7}$
比 重	$\frac{24.0-25.0}{24.4}$	$\frac{23.0-24.0}{23.7}$	$\frac{22.1-23.7}{25.3}$

但し { 気温は南水槽室
水温はNo. 25水槽 } 7/10時に測定
比重はNo. 25水槽

来 訪 録

- 5月1日 東京大学三崎臨海実験所長 富山一郎博士来館。
 5月15日 横須賀市立博物館主事羽根田彌太博士来館。
 5月22日 カメラ毎日編集部記者 橋本伸治氏魚類撮影のため来館。
 5月24日 門司市立和布利水族館長 藤田矢郎氏(九大水産学科出身)来館。
 5月29日 海岸動物撮影のため 保育社編輯主仕堀田喜雄 写真技師 八上重夫氏来館。今後しばしば水族館、博物館の各資料を撮影して貰える筈。

昭和30年6月3日 発行 (No. 33)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興會
和歌山縣・白浜町
瀬戸臨海実験所 内
(電話 白浜温泉 515)